

Economic Indicators

発表日: 2024年1月24日(水)

貿易統計(2023年12月)

～10-12月期の実質輸出は小幅増加も、基調は弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出金額	輸入金額	前年比	アメリカ	EU	中国	前年比	アメリカ	EU	中国
				前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	
	12月	▲ 14,979	▲ 18,596	11.5	21.2	▲ 5.0	▲ 3.1	6.3	▲ 20.3	▲ 6.3	▲ 8.3	8.9	▲ 11.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,051	3.5	17.2	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.5	▲ 26.2	▲ 2.6	▲ 1.0	▲ 8.3	▲ 1.2
	2月	▲ 9,199	▲ 11,971	6.5	8.2	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 22.5	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 11.6
	3月	▲ 7,588	▲ 11,668	4.3	7.1	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 19.7	▲ 3.5	0.8	▲ 5.7	1.8
	4月	▲ 4,364	▲ 10,146	2.6	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.4	▲ 1.6	▲ 5.2	▲ 3.9	10.1
	5月	▲ 13,821	▲ 8,018	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.6	▲ 6.8	▲ 6.2	▲ 10.5
	6月	392	▲ 5,737	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 14.0	5.0	▲ 13.9
	7月	▲ 637	▲ 5,886	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.2	▲ 12.2	15.6	▲ 16.1
	8月	▲ 9,432	▲ 5,751	▲ 0.8	▲ 17.6	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.1	▲ 9.0	▲ 9.6	5.1	▲ 13.8
	9月	654	▲ 4,760	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.7
	10月	▲ 6,671	▲ 5,721	1.6	▲ 12.4	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.2	▲ 0.0	0.8	▲ 2.4
	11月	▲ 7,804	▲ 3,506	▲ 0.2	▲ 11.9	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.3	2.5	0.3	▲ 3.4
	12月	621	▲ 4,127	9.8	▲ 6.8	3.1	16.9	1.6	2.8	▲ 3.1	▲ 5.6	▲ 13.9	▲ 0.6

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支(季節調整値)は赤字基調が続く

財務省より発表された23年12月の貿易統計では、輸出金額が前年比+9.8%、輸入金額が同▲6.8%、貿易収支は621億円の黒字となった。輸出は市場の事前予想(前年比+9.2%)に近い数字だったが、輸入が事前予想(同▲5.2%)を下回った結果、貿易収支は事前予想(▲1,190億円の赤字)を上回り、小幅ながら3か月ぶりの黒字となった。季節調整値でみると、輸出金額が前月比+5.8%(11月:同▲1.4%)、輸入金額が同+6.2%(11月:同▲3.7%)とどちらも3か月ぶりに増加に転じ、貿易収支は▲4,127億円の赤字となった。原油価格の落ち着きにより、貿易収支の赤字拡大には歯止めがかかっているものの、輸出の伸び悩みによって高水準での赤字が続いている。なお、輸入物価については22年秋頃までの高い伸びの裏が一巡したことを受けて、今後は下落幅を縮小させる見込みである。これにより輸入金額も今後は減少ペースを緩める見込みであり、貿易収支(季節調整値)の赤字基調は当面続くだろう。

○10-12月期の実質輸出は小幅増加も、基調は弱い

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)をみると、前月比+7.2%の増加となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。単月では大幅な増加となったが、11月に同▲5.2%と落ち込んでいた反動の面も大きい点には注意が必要だ。

この結果、四半期で見ると10-12月期は前期比+0.2%(7-9月期:同+0.6%)と、小幅ながら増加を維持する結果となった。自動車生産の回復と、主要な輸出先である米国と欧州の粘り強い自動車需要が支えとなって、輸送用機器が前期比+5.8%と3四半期連続の好調を維持したことが大きい。

ただし、輸送用機器を除いた実質輸出は、前期比▲1.0%（7-9月期：▲0.7%）と減少傾向が続いていることを踏まえると、実質輸出の基調は弱いと判断した方が良い。特に、輸送用機器に次いでウェイトの大きい一般機械は前期比▲0.2%と5四半期連続の減少となっており、中国経済の低迷や世界的な製造業部門の景況感悪化を反映して弱い動きが続いている。

そうした中で、電気機器が前期比+0.4%（7-9月期：+1.7%）と2四半期連続の増加となり、減少が続いてきたIT関連財に緩やかな持ち直しがみられる点は好材料といえる。IT部門が増加傾向に転じれば、先行きの輸出の下支え要因として期待できるだろう。

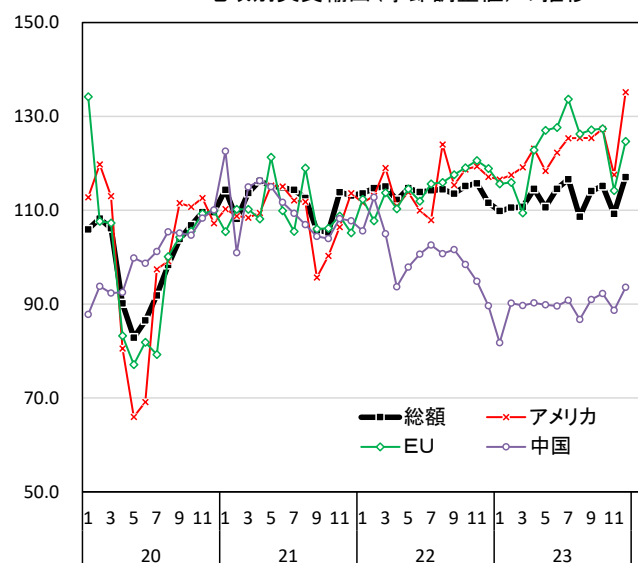
○地域別実質輸出の動向

12月の実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比+15.0%（11月：同▲7.7%）、欧州向けが同+9.2%（11月：同▲10.4%）、中国向けが同+5.5%（11月：同▲3.9%）となり、いずれの地域も増加に転じた。また、四半期で見ると、10-12月期は米国向けが前期比+1.1%（7-9月期：同+3.4%）、欧州向けが前期比▲5.4%（7-9月期：同+2.5%）、中国向けが前期比+2.2%（7-9月期：同▲0.4%）となった。

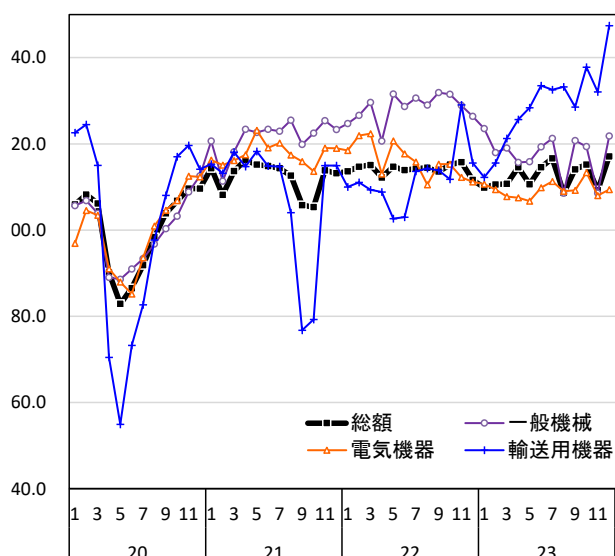
米国向け輸出は、ウェイトの大きい自動車輸出の回復が支えとなって堅調さを維持している。その一方で、欧州向け輸出は10-12月期は大幅な減少に転じており、景気減速を反映して自動車以外の財の落ち込みが明確となっている（一般機械：前期比▲14.2%、電気機器：同▲9.0%等）。中国向け輸出は、2四半期ぶりに増加に転じたものの、中国景気の低迷によって低水準が続いており、均せば横ばいの動きに留まっている。

先行きについて、23年頭から続いてきた自動車の挽回生産も一巡することで、今後は自動車輸出の増加ペースも鈍化に向かうと見込まれることから、好調を維持してきた米国向け輸出も停滞感を強めるだろう。上述の通り、IT関連財が持ち直しに向かえば下支え要因となるものの、欧米を中心とした金融引き締めの影響で世界経済の減速が明確になることから、実質輸出は弱い基調が続く見込みだ。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。